

東北復興 PSW にゆうす

3年という期間は、生まれたばかりの赤ん坊が3歳になり、3歳であった子が小学校に上がり、中学に入学した子が高校に入学するだけの時間が経過するという事です。被災地で奮闘する精神保健福祉士のお話を聴くたびに、この3年間私は何をしてきたのかと煩悶するばかりです。皆さまの3年はいかがでしたか？ さて、3月の理事会において次年度の事業計画が承認され、復興支援本部が取り組んできた活動は、今年の6月末から復興支援委員会に引き継がれることとなりました。この「にゆうす」はもちろん継続していきますし、新たな企画も検討中です。ご期待を！（副本部長 木太直人）

もう3年、まだ3年..

そして、忘れないこと、伝えること

ありがとう復興支援



P協会全国大会まであと1カ月。是非ご参加を！

神奈川県精神保健福祉士協会では、さる3月1日、2日に宿泊研修を福島県で開催しました。日本精神保健福祉士協会の復興支援活動助成金と福島県精神保健福祉士会の全面的なご協力を得て実現しました。神奈川県協会からは会員22名が参加しています。

福島県内での震災発生後のこれまでの活動や現在の取り組みについての研修、福島県精神保健福祉士会会員との意見交換のほか、被災地の語り部ボランティアさんのお話を聞き、被災地の視察も併せて行いました。行程は以下の通りです。

【3月1日(土)】

横浜市内出発→郡山市内(針生ヶ丘病院)「震災時の活動からこれまでを振り返って」(講義・グループワーク)→福島県精神保健福祉士会との意見交換会

【3月2日(日)】

郡山市内→いわき市内(被災地語り部ボランティアの案内による現地視察)→いわき市内(舞子浜病院)講義「被災した精神科病院の実践報告」、講義「原発から15キロ地点にあった相談支援事業所に起こったこと」→横浜帰着

福島県精神保健福祉士会の会員の方からは、震災直後の様子から現在に至るまで、時系列にそれぞれの立場や組織での混乱、課題点についてまとめて講義をいただきました。報道されない内容や、3年を迎えることで見えてきたことなどをまとめていただき、支援者としての苦悩と複雑な思いを知り、今一度、私たち自身の活動も冷静に振り返ることが出来た貴重な2日間となりました。

これまで被災地支援に関心は持っていたものの躊躇していた会員も参加できたことや、被災地支援に携わったものの、帰還後の消化不良を起こしていた会員は、宿泊研修に参加することで、同じ支援者として「繋がっている」ことを実感できたことが、今回の研修の成果でした。

快く迎えていただいた福島県精神保健福祉士会の皆様感謝するとともに、意見交換の中では、「もう3年」「まだ3年」ということなどが語られ、直接的な支援をすることが難しい会員などは、「忘れないこと」「伝えること」ということを、参加者自身が思いを新たにしたい研修であったと思われます。

神奈川県精神保健福祉士協会 副会長 鈴木 剛

神奈川の皆さま、福島にお越しいただき、ありがとうございました！ 県会員も他県の方々との交流や改めて被災地区を視察することで、自身の活動を振り返り、次への活力となります！ 私自身も今すべきことを感じる事ができた2日間でした。今年度は「復興支縁ツアー」を9～11月に開催予定です！ 埼玉の全国大会では皆様にご案内できると思います。東北各地の「おもてなし」で皆さまをお迎えしますので「また行ってみよう」という方も「初めてです」という方もぜひご参加ください！ 多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

福島県支部 菅野正彦

前回紹介しきれなかった四国ブロックの方々からの心温まるメッセージをお届けします。

☆マークは県花のイラストです☆ 徳島県(すだちの花) 高知県(やまもも) *メッセージをいただいた時点での役職等を記載しております。

☆ 徳島県支部 森 真弓 「心のケアチームに参加して」~今の思い~



東日本大震災「徳島県こころのケアチーム」として、私達は4月の初めに仙台市若林区を訪れました。あれから、もうそろそろ2年が経ちます。あの時お会いした方々は、お元気でいらっしゃるでしょうか。今も時々地震は日本列島を揺るがし、この極寒の中、仮設住宅に身を寄せている被災者の方々が未だ数多くいらっしゃることを思うと、身が引き締まる思いです。あの時、自身の家や家族が被災していながらも、保健師や PSW として支援する側の人々とたくさん出会いました。私達にずっと付き添ってくれた「はーとぽーと仙台」の H さん、お元気でいらっしゃいますか？ご自身も疲弊されている中で、他地域から次々に派遣される我々のような者の世話までしていただきましたね。命からがら助けられ、避難所に身を置くことになった方々の所にお邪魔し、お話を伺う中で、我々は支援するというより逆に、たくさんの事を学ばせてもらった気がしています。ただただ、そこに寄り添い、うなづくことしかできなかった日にも、多くの方が、遠くから来たことへのねぎらいの言葉をかけてくださいました。同行した医師や地域の支援者につなぐことができた例もいくつかありましたが、限りある日数の中で、我々ができることは本当に少なかったように思います。認知症の夫の入浴を手伝ってくれる同じ避難所の男性に「手を合わせている。」と言っていた A さん、少しでも皆を癒したいと牛乳瓶にそと草花を飾っていた B さん、すぐに逃げられるように玄関に布団を引いて寝ていたけれど眠れず、怖くて逃げてきたという C さん、寒い体育館での仮設住宅説明会で、「納得がいかない。情けない。」と行政職員に詰め寄っていた D さん、「遠い親戚が何度も心配してくれる電話は、喜ぶべきなのに、事情を説明するのが実は苦しい。」と吐露していた E さん…など、たくさんのシーンが今も頭をよぎります。徳島に帰った後、私達が今住んでいるこの場所が被災した場合、自分がどう動けるのかを考えさせられました。支援を体験した方々が集う会に参加したり、県内の PSW とも、自分の所属する組織の中で何ができるか、何をすべきかを一緒に考える機会も持ちました。しかし、未だ課題は多く残っているながら、何もできない自分がい

ます。24年度から、「精神障害者アウトリーチ推進事業」を担当する事になりましたが、その業務をする中で、最近思っていることがあります。仙台への派遣はまさにアウトリーチでした。医療や福祉の提供は勿論大切ですが、やっぱり人には「人の力」が必要であると痛感しています。一人にできる事は少ないですが、その現場に近づいて行き、傾聴し、寄り添い、そこからできる何かを一緒に見つける事。仙台行きから学んだことでもあります。前を向いて、私にできるその事を進めていこうと思っています。どうか、被災された皆さんが一日も早く幸せになりますように…。

◆お知らせ◆

東日本大震災復興支援活動助成金の第2期募集が終了しました。宮城県精神保健福祉士協会より2件の応募があり、承認されました。活動内容については順次紹介させていただきます。

♥~復興支援活動募金報告~♥

2,896,726円 (2012年5月7日~2014年4月25日現在)
皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。

☆ 高知県支部 坂本万理



被災地で活動されている PSW の皆さんへ

私は震災の所へ行く事は出来ていませんが、気持ちはいつも応援しています。被災した中で活動されている PSW の方や応援できている PSW の方もいて、それぞれの思いや様々な気持ち・葛藤があるのではと思います。これから PSW を必要とする方はたくさんいると思います。今はまだまだかもしれませんが、これから少しずつ復興が進んでいくと信じています。遠くからですが、いつも応援しています。

☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部への FAX もしくは E-mail にてお願いいたします。

E-mail: office@japsw.or.jp * 題名に「PSW にゆうすについて」とご記入をお願いします。

第11号 2014年5月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援本部

〒160-0015 東京都新宿区大塚町 23-3 四谷オーキッドビル 7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

復興支援本部 URL: <http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>